

## 序 章

東京医療保健大学は平成17年度に開学し、医療及び保健の現場に役立つ専門職教育を行うこととし、横断性と専門性とを調和した実践、医学的視点からの栄養科学教育、デジタル化時代に対応できる情報のコミュニケーター教育、リスクマネジメント及び感染制御に関する教育、実践達成度評価に必要な統計学的教育などに力を入れて、学部及び大学院教育を行っています。

本学のこのような教育への真摯な取り組みを中心に、開学以降の教育研究等の実績を明らかにするため、完成年度を迎えた平成20年度以降毎年度、教育・研究、組織・運営並びに施設・設備等の状況について自己点検・評価を行ってまいりました。

自己点検・評価の結果については、学長・学科長等を構成員とする自己点検・評価委員会及び学内会議において検証・審議を行った後、報告書をまとめ、大学経営に関する重要な事項を審議する大学経営会議及び学校法人青葉学園理事会・評議員会の審議・承認を経て、印刷物として関係機関に送付するとともにウェブサイト公表しております。これにより社会への説明責任を果たすとともに社会からの評価を真摯に受け止めて教育研究活動を着実に推進しております。

本学では、自己点検・評価によって、大学創設の原点に立ち返り、建学の精神及び教育理念等に基づき、医療分野において特色ある教育研究を実践することで時代の求める高い専門性、豊かな人間性、教養及び能力を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して新しい視点から総合的に対応し解決できる人材の育成を目指すとともに、学生にとって魅力ある大学となるよう不断の努力を行うこととし、あわせて将来に向けた発展方策に基づき教育研究等の充実・発展に努めることといたします。

東京医療保健大学長 小林 寛伊